

次の中川へ。

近年、地球規模での「持続可能性」に対する危機感が世界中で語られており、日本国内でも、持続可能性を表すサステイナビリティ（Sustainability）という言葉をあちこちで耳にするようになりました。

中川村では、持続可能な村づくりの一歩として2008年にNPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟し、里山の景観や環境、文化を守り、地域資源を活かしながら美しい村としての自立を目指してきました。

まず、持続可能性とは

2015年9月、国連で開かれたサミットで持続可能な開発目標SDGs（エスディージーズ）が採択されました。SDGsとは、Sustainable Development Goalsの頭文字をとった略称で、異常気象や環境問題、難民、貧困、経済成長やジェンダー（社会的、心理的性別）に至る広範な社会課題の解決に向けた17のゴール（目標）と、169のターゲット（達成基準）で構成される国際目標のことです。SDGsは、「世界中の誰一人取り残されない」ことが強調されており、2030年までに達成することを目標としています。

かつては、環境問題や社会課題は国や国際機関が率先して対処するものという考え方がありました。しかし、近年各国で深刻化する環境問題や経済・社会問題は、もはや国や国際機関だけではなくても対処しきれないほど複雑で身近な問題になり、自治体や企業、住民の協働による対応が急務となっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

消滅可能性都市の衝撃

は3,566人に減少することが予測されています。

SDGs採択の前年2014年5月、日本創生会議は少子化の進行に伴う人口減少によって、2040年までに存続が困難になると予測される自治体を「消滅可能性都市」として公表しました。その数は全国の市町村の約半数にあたる896市町村におよび、長野県では中川村は含まれていませんでしたが、近隣の町村を含む34市町村がリストアップされました。

推計や解釈についての問題が指摘されているものの、少子高齢化や人口減少が目に見える数値として公表されたことで、自治体の存続がより危機感をもつてとらえられるようになったと言えるでしょう。

村では、中川村総合戦略（2015年度～2019年度）を策定し、急激な人口減少を抑制するために様々な施策を推進していますが、「日本の地域別将来推計人口（2018年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）によると、村の人口は、2015年国勢調査の4,850人から2040年に

村長に訊く

中川村がこれからもずっと暮らしつづけたい村であるために、



□持続可能な村を語るとき、村民の皆さんにはどのような説明をされていますか？

中川村としては、2008年に「日本で最も美しい村」連合に加盟したことが、持続可能な村づくりを見据えるきっかけだと考えています。失つたら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観や環境・文化を守り、地域資源を活かしながら美しい村としての自立を目指す、というのが連合の主旨です。ですから、持続可能な村づくりは、美しい村としての中川村の姿でもあると説明させていただいています。

中川には原風景と呼ぶにふさわしい「ふるさとの風景」も「文化伝承としての祭り」も「地域に根付いた暮らし」もあり、村民の皆さんによつて脈々と受け継がれてきました。

加盟から10年を迎え、中川村らしい地域資源、誇りに思えるふるさとの姿を改めて感じ、小さくてもオンラインの輝きを持つ美しい村として守っていきたいと思っています。

□村として、どのような状態なら持続可能と呼べるでしょうか。

まず、暮らしが成り立つ。生業から収入が得られる

ということが挙げられます。そして生活するうえでの教育・福祉・整った社会資本など社会的なサービスが最低限受けられること。集落、地域社会の関わりの中で安心して生きられることだと考えます。そしてそのような状態になるよう村＝地方自治体が機能を果たすことが必要であると思っています。

□今後思い描く中川村の姿、ビジョンについて聞かせてください。



ると思います。集落の維持も、移住・定住する方々を抜きには困難だと考えています。

休耕地の活用、空き家の活用、移住者のバックアップ、集落の維持、出生数の地域差、それぞれの地区特有の課題や魅力をどう発信していくかなどたくさん的问题・課題はありますが、中川村ならではの地域資源の価値をまず村民が認めて応援し合い、支え合いながら次の10年へと歩みを進めていきたいと思っています。



中川村基本指標

総面積●77.05km²
 山林…75.7% 田…6.4%
 畑…5.4% 宅地…2.3%
 原野…4.6%
 その他…5.6%

東 西●15km
 南 北●10km
 周 囲●41.4km
 標 高 差●465~1,688m
 人 口●4,917人
 世 带 数●1,635世帯
 地 区 数●27地区
 産 業 別●第1次産業 628人
 就業人口 第2次産業 914人
 第3次産業 1,273人



地目別土地面積は、平成30年度概要調書基礎資料より算出。人口・世帯数は平成30年8月1日現在(外国人含む)。産業別就業人口は平成27年国勢調査。



中川村の位置・地勢

中川村は中央アルプス(木曽山脈)と南アルプス(赤石山脈)に挟まれ、天竜川が南流する信州伊那谷の中ほどにあります。上伊那郡の最南に位置し、天竜川を境に東に南向地区、西に片桐地区と、ふたつの地区に大別されます。北は飯島町と駒ヶ根市、東は大鹿村、そして南は松川町にそれぞれ接しています。村は丘陵地や扇状地がいたるところに見られ、変化に富んだ地形を造っています。地質は花崗岩質で、表土はそれが風化した砂壤ローム層

となっています。

南向地区は伊那山地が走り、傾斜地が多く複雑な地形で平坦地が少ないため、果樹栽培が盛んに行われています。一方、片桐地区においては天竜川沿岸とその上段の扇状地に平坦な農地が多く、比較的規模の大きな農業経営が行われています。また幹線道路である国道153号が走り、沿道に商店街が形成されています。



まち・むら交流

名古屋市 天白区



天白区民まつりへ出店

ふれあい協定

名古屋市のベッドタウン天白区との都市・農村交流は、昭和63年以来、同区で盛んなレクリエーション(6人制クリエーションバレーボール)を通じて



中川町長と中川村長



中学生の交流

姉妹町村

昭和56年6月、中川村と北海道中川町は自治体名が同名であるよしみから、姉妹町村の盟約を結び、相互の発展に寄与することを誓いました。

長い交流を続けています。

中川町は、これを契機に両町村は産業・教育・文化などの分野で、息の



村議会議員



山崎議長、中塚副議長



富永副村長、宮下村長、下平教育長



町内を東から北西にかけて流れる天塩川



天白区子ども会との交流

進められてきました。村発足40周年の平成10年に「ふれあい協定」を締結し、地道な交流が続いている。

中川村発足60年周年記念誌の編集にあたり、

10代から90代まで幅広い年代の皆さんに、

さまざまなお話をうかがうことができました。

座談会では合併当時を知る方々から、

貴重な村の暮らしや出来事を語っていただきました。

確かにそんなことがあったなあと、

懐かしく思い出された方も多いことでしょう。

村民の皆さんへのインタビューでは、

村への想いや前向きなメッセージを聞かせていただきました。

60年のあゆみでは、年表に加え、

50周年からのここ10年を写真と解説を交えて詳しく振り返りました。

「風景だけでなく何より人がいい」

「温かくてやさしい」「年代を超えたつながりがいい」

「帰ってくるとホッとする」「あまり変わってほしくない」

これは取材させていただいた皆さんに

「中川のどんなところが好きですか?」と尋ねたときに多かった答えです。

美しい村は、景観や伝統や文化はもちろんのこと、

そこに暮らす人の心あってこそと改めて実感しました。

豊かな暮らしを育んできた60年の歴史を礎として、

将来のリニア中央新幹線の開業、三遠南信自動車道の開通を見据えた、

中川村の未来への歩みが始まります。



うちょうらん 提供: 稲葉義博(柏原)

村花／うちょうらん

花弁と花の色に特徴の趣(おもむき)があり、人の和と自然の美しさを表わしています。

昭和53(1978)年7月4日制定

村木／ひのき

四季を通じて緑で地域を涵養し、すくすくとまっすぐに伸び、発展する村の将来を象徴しています。

昭和53(1978)年7月4日制定



村章

中川村の「中」を図案化し、輪は「和合」、三角錐は「発展」をそれぞれ象徴しています。

昭和34(1959)年3月2日制定

三
陣馬形 姿やさしく
共にはほえみ
理想はひとつ
ああ 励みあう
わがふるさとよ
平和な自治の
ほまれを永久に
継ぎゆかむ

二
緑濃き 村を流れる
清き天竜
ああ 野に山に
めぐみはゆたか
中川 中川
坂戸の花と
咲ききそう

一
朝夕に 仰ぎ親しむ
駒の頂き
ああ あの雪の
白さに映えて
中川 中川
わがふるさとの
かがやく未来
日本の屋根に
虹を呼ぶ

村歌

作詞／米山 園枝 補作詞／戸枝 ひろし

作曲／宇田 とおる

昭和53(1978)年制定

